

ようこそ 青山学院へ

新たな出会いと発見に満ちた学院生活。
新しい仲間へ歓迎のメッセージを送ります。



幼稚園教諭 橋本 治奈

神さまとともに

新入園児の皆さん、ご入園おめでとうございます。いよいよ幼稚園生活が始まりますね。皆さんが幼稚園に来るのを楽しみに待っていました。幼稚園

は自分の好きなことを見つけてたくさん遊ぶところです。一緒にやりたいことや楽しいことをたくさんしましょうね。初めての幼稚園生活は、嬉しいことや楽しいことだけではなく、ときどきすることやお家の方に会いたくなくて涙が出ることもあるでしょう。そんなときには、先生たちだけではなく、お兄さんやお姉さんたちも、皆さんのことを心配して声を掛けてくれます。どんなときでも、先生たちは一人ひとりのありのままの思いを受け止めて、近くにいますから安心して幼稚園に来てくださいね。

青山学院幼稚園で一番大切にしていることは神さまへの礼拝です。毎日お祈りをして讃美歌を歌います。聖書のお話も聞きます。嬉しいときも、悲しいときも、どんなときでも神さまと一緒にいて守ってくださいます。一人ひとりが神さまの子どもとして、神さまの愛と恵みの中で過ごしていかれることに感謝して、光の子どもとして歩む3年間となりますように。

泣いていたあの日から ～神様に守られて歩む園生活～

幼稚園保護者会会長 齊藤 久美子

ご入園おめでとうございます。ときどき、わくわくしながら迎えた入園式が、つい先日のことのように思い出されます。

入園したばかりの頃、何をすることも私から離れられず毎日泣いていた息子。雨の日も風の日も歩きたくないと、毎日抱っこで登園していた息子。虫や花や葉っぱを見つけては立ち止まり、15分の道のりを1時間以上かけて登園していた息子。

「これはいつまで続くのだろう」と、先の見えないトンネルの中にいるような気持ちになることもありました。

そんな息子も今では、たくさんのお友達と出会い、後ろを振り向くことなく門を駆け抜け、嬉しそうに保育室へ向かっていきます。神さまに見守られ、先生方の深い愛情に包まれながら安心して日々を過ごしてきたからこそだと、心から感謝しております。

どうか今しかない、このかけがえのない愛おしい時間を、親子でゆっくり味わいながらお過ごしください。幼稚園で過ごす日々が、神さまの恵みに満ちた宝物の時間となりますように。皆さまを新しい仲間としてお迎えできることを、心より嬉しく思っております。



新しい世界へ

初等部教諭 福岡 悠馬

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しいことや新しいもの、新しい人との出会いが初等部で待っています。これから始まる6年間でいろいろなことに触れて、大きく成長して行ってほしいです。

初等部という新しい世界での友達や上級生、先生との関わりや学びの時に対して期待と、もしかしたら不安もあるかもしれません。でも大丈夫です。ゆっくりでいいから、一步一步前に進んで行けます。友達も上級生も先生も家族の方々もそして神様も、みなさんのことを見ていてくれます。

初等部ではお祈りの時をみんなで大切にしています。時にはみんなでお祈りをして気持ちを分かち合って、時には一人一人で行々の感謝を伝え、心の不安を神様に聞いてもらいます。みなさんも自分の気持ちをいつでも神様にお話ししてみてください。

わくわくとドキドキの初等部での生活、たくさんのチャレンジと遊びと学びを、元気とやさしさをもって笑顔で過ごしてください。みなさんの未来が希望に満ちたものになりますよう願っています。



初等部 2年 山田 雅

たくさんおもいでを つくろう

1年生のみなさん、ごにゅう学おめでとうございます。青山学いんしょとうぶには、たくさんのおきょうじや、きゅうしょくがあります。わたしはまい日学校に行くのがたのしいです。そして、きゅうしょくのおかげでたべられるものがたくさんふえました。あなたも、きゅうしょくでにが手なものも一口たべてみてくださいね。きっとすきになれるとおもいます。

まい日のれいはいでは、さんびかとせいしょをよみます。わたしがーばんすきなさんびかは「クレド」です。なぜすきかというと、せかいのへいわをねがうきよくだからです。みなさんにもはやくおしえてあげたいです。

青山学いんしょとうぶには、パートナーというものがあるのをしていますか？パートナーさんは2ねん生と6ねん生で、いっしょにあそんでくれたり、いろいろなことおしえていただきます。わたしは6ねん生のパートナーさんと、しょくどうきゅうしょくのあと、もうーどいっしょにこうていであえるじかんが大好きです。4月に1ねん生のパートナーさんにあえるのが、いまからとてもたのしみです。学校のことをたくさんおしえてあげたいですし、はやくあいたいです。たくさんおもいでをつくってくださいね。



中等部教諭 姜 福順

ようこそ、中等部へ！

80期のみなさん中等部ご入学おめでとうございます。真新しい制服に包まれている今の気持ちはいかがですか。この制服を着て今日から「中等部生」としての3年間が始まります。そのようなフレッシュな新入生の皆さんへ、私から学校生活を充実させるための小さなヒントをお教えします。それは、入学式を終えたばかりのみなさんにはまだイメージできないかも知れませんが、3年後の自分を思い描きながら毎日を過ごすということです。「3年後にはどうなっていたいか」を考えながら生活していると、普段見過ごしてしまいそうな小さな出来事や出会いがとても気になるようになるはずです。また、この答えは一人で出すことが難しいので、たくさんの方の話に耳を傾けようとするでしょうし、たくさんの方の行動を見て参考にしたいとも思うでしょう。

中等部にはみなさんを含め768名の生徒がいます。これまで出会ったことのないようなバックグラウンドを持つ生徒との出会いがたくさんあります。



また、日々の礼拝でも神様の御言葉に触れながら自らと向き合う時間もあります。そして、80期を担当させていただく私たちは、みなさんの自分探しをさらに楽しくする仕掛けをたくさん用意しています。このような環境で自分探しの旅を楽しんでください。応援しています。



中等部3年 小林 楽来

今、思うこと



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。2年前の春、僕も皆さんと同じように中等部生活のスタートラインに立ちました。新たな出会いへの期待、これから始まる新生活に、胸が高鳴ったことを今でも鮮明に覚えています。それと同時に、小学生から中学生へと大きく環境が変わることに、たくさんの緊張もありました。3年生になった今、僕から新入生の皆さんに伝えたいこと。中等部には、様々な挑戦に向けて助け合える仲間がいます。1人だけで乗り越えることが難しいことも、みんなで協力することで大きな力に変えられると、僕は自分自身の経験から学びました。そして、「踏み出す勇気を持つ大切さ」を、僕はこの中等部生活を通じて強く実感しています。大小様々な選択を前に、時に迷うこともあります。勇気を出して踏み出した一歩は、必ず充実した学校生活に繋がるはず。今日から共に青山学院中等部の仲間です。これから一緒に楽しく充実した学校生活を築いていきましょう。

高等部教諭 北川 理恵

他者との関わりで自分を見出す

新入生の皆さん、高等部へようこそ！これからの3年間、友達・先生・先輩・後輩など様々な人との出会いによって、自分自身を改めて知る経験をすることでしょう。さらに、聖書の言葉は、究極の他者である“神様”の視点によって、自分自身を新しく知る助けになることと思います。

なぜあの人ができることを私はできないのだろうと、周りと比べてばかりいた私は、ある聖句との出会いで物の見方が大きく変わりました。それは、「**あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です**」(1コリント 12:27 新共同訳)。目も耳も手も足も、それぞれに異なる特徴と役割があり、それらが一つの体を形成しているように、私たち一人一人にも違いがあり、役割があり、足りないところもある。だからこそ私たちは支え合いながら、共に生きる存在なのだ気づかされたのです。そして、神様が望んで今の私を存在させてくださったと知った時、喜びで満たされました。

皆さん一人一人に、新しい視点を与えてくれる聖書の言葉との出会いがあるように願っています。



高等部3年 横山 沙弥香

かけがえのない日々

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！中等部から内部進学してきた人も、受験して入学してきた人も、それぞれ新しい環境に期待と不安を抱いているのではないのでしょうか。高等部は様々な行事や部活で充実しているので、素敵な毎日が待っています。

私の好きな聖書箇所「若者よ、あなたの若さを喜べ。若き日にあなたの心を楽しませよ。心に適う道をあなたの目に映るとおりに歩め。」(コヘレト 11:9)

というのがあります。高校3年間はあっという間に終わってしまいます。気が付けば私も高校最後の年になってしまいました。仲間たちと笑いあった楽しい日も、思うようにいかず頭を抱えた日も、何気ない日常も振り返ってみると大切な思い出です。後悔先に立たず！何か新しいことに挑戦してみたり、興味があることに素直に向きあったり、やりたいことは後回しにせず、思いっきり青春してください！皆さんのこれからの高等部生活が、実り多く、輝かしいものになりますよう願っています。



科学の世界の 公用語

総合文化政策学部教授 福岡 伸一

こんな思い出話があります。大きな規模の生物学の国際学会に参加しました。世界中からたくさんの研究者が集まります。私を含め、非英語圏からの参加者も多数います。初日は皆が一堂に会し、学会の開催宣言が行われました。この分野の大御所学者が、基調講演を行います。今回、その役は、スイスの著名な先生によってなされました。彼は、威厳に満ちた重々しい足取りでゆっくりと壇上に上がり、演台の前に立ちました。そして開口一番、彼は英語でこう言いました。

「科学の世界の公用語は、皆さん、英語であると当然のようにお考えになっていると思いますが、実は違います」

一体、何を言い出すのでしょうか。会場に集まった人々は驚いて彼の顔を注視しました。彼自身は、ドイツ系スイス人。その英語はかなり強いドイツなまり、お世辞にも流暢な英語とは言えません。皆は、次に彼がなんと言うか息を吞んで待ちました。まさか、彼の母語であるドイツ語だ、などと言うのではないだろうな。かつてドイツはすべての科学分野で世界をリードしていた黄金の一時期があったことは確かだが、いまさらそれはない。

果たして、彼はこう言いました。

「科学の世界の公用語は、へたな英語(プア・イングリッシュ)です。どうかこの会期中、あらゆる人が進んで議論に参加されることを望みます」

会場からは大きな笑いとそして拍手が沸き起こった。この基調講演に勇気づけられたおかげだろう、この学会では、どのセッションでも非英語民の活発な発言が目立った。私もその一人だった。みなさま、入園・入学おめでとうございます。ぜひ勉強や友達作りに励んでください。



やらぬ後悔より、まずはやってみよう

総合文化政策学部 4年 李 明恵

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる新生活にワクワクしている人もいれば、緊張している人もいるでしょう。私も3年前、憧れと不安を抱きながら入学しました。「やらぬ後悔よりやる後悔」という言葉を胸に、たくさんのことに挑戦してきました。多くの失敗も経験し、途中で諦めてしまったこともありました。この3年間で出会った仲間や経験は、今の私にとってかけがえのない財産です。

新入生の皆さんもぜひ、新しいことにどんどんチャレンジしてみてください。学生だからこその挑戦がたくさんあります。失敗してもいいんです。やってみて「違うな」「しんどいな」と思ったら、手放しても構いません。行動していく中で、自分に向いていることや本当に大切にしたいことがきっと見つかるはず。チャレンジするか迷ったら、ぜひ一歩踏み出してみてください。

そして、その挑戦の一つとして、青山学院のキリスト教活動にもぜひ触れてみてください。皆さんの青山学院での生活と挑戦が、実り豊かなものとなるよう心からお祈りしています。

